

主として枝肉取引規格(重量)から見た肉畜共進会

逸 見 荘

昨年師走もおし迫った12月第2回総社、第6回倉敷、第1回岡山、第2回瀬戸枝肉共進会、さらにこれら各地区から選抜される肉畜による第1回岡山県肉畜共進会が、枝肉審査とせり売りにより当市場において開催されました。これは毎年各地区で開催されてきた肉牛共進会を、本年度から枝肉で審査した後、せり売りされたもので、これら一連の枝肉共進会は、市場での枝肉取引を広く関係者に公開、市場運営の認識を一段と深めた特筆すべき催しであったわけであり、ここでこれら前後5回にわたって開催された共進会を、主として枝肉取引規格(重量)基準に照らして、いまま少し検討して見たいと思います。

枝肉の格付けと重量

御承知のとおり枝肉格付けにあたっては、枝肉の重量・外観・肉質の3項目によって極上(260 kg以上)、上(230 kg~259 kg)、中(190 kg~229 kg)、普(190 kg以下)に分類して行くわけですが、このうち外観(均称、肉づき、脂肪付着、仕上げ)、肉質(脂肪交雑、肉の色沢、肉のきめとしまり、脂肪の色沢、脂肪の質)は重量と相対関係にあるわけであり、言いかえますと、外観、肉質等が規格基準を満たしている場合には、枝肉重量は大抵の場合、この格付重量をオーバーしている場合が多いといえるわけであり、このような重要性をもつ枝肉重量を主として、規格別に分類して平均を出しますと、次表のように分かれてきます。

極上は生体重 500 kg以上

この表に示す重量を、便宜上概念的に大体生体重500 kg、450 kgの2段階に分類して考えて見ますと、500 kg程度以上のものは文句なしに、枝肉重量に於いて極上の部類に属し(枝肉260 kg以上)、450 kg程度以上のものは上に属し(枝肉230 kg~259 kg)、それ以下のものは上、あるいは中に該当していることがわかりますが、これは当然とはいえ、ここで一応考えさ

せられることは、でははたして重量だけでよいであろうか。今かりに重量だけで見た場合は、実際問題として和牛のメスの場合では、よく小型のものを肥育して450 kg位で出荷されることがあります。これを前述の如く生体重だけで見た場合、枝肉格付けは上に属するわけですが、このような小型のメスでも資質がよく、よく肥育出来ている場合は枝肉重量は260 kg以上あり、サシも充分で極上に入っていく場合が多く、したがって重量のみで断定するのはこのようなメスの場合は早計のようです。

しかし去勢牛の場合は、必ず生体重でいずれの場合でも500 kg以上位ないとサシも充分でなく、枝肉重量も260 kg以上とならないし、外観、肉質等も期待出来ず、したがって極上とならないようです。

このことから考えますと、去勢牛の若令肥育で仕上体重420~450 kgのもので、枝肉重量で260 kg(極上)に満たない場合があるとしたら、これはおそらくサシも充分でないことが推察されるわけであり、そうすると極上に入らないわけです。

現状では生体重 450~480 kg程度から

また牛枝肉の重量は、この表に示すように300 kgを超すものは、現段階に於いては特別に肥育したものであり、普通の場合前述の260 kg~270 kg位の大きさのものが好ましく、事実大衆肉として好まれる場合が多いので、そうするとこの場合は、生体重で450 kg~480 kg位でよいこととなります。去勢牛の若令肥育でよく出来たものは、この程度の重量は肥育技術の向上によって期待できるし、又農林省の示す改良目標(本誌3月号掲載)の線に沿ってもそうあるべきで、そうすることによってサシも充分出てくるわけです。

ころろみに、2月中における当市場で扱った牛の生体重を調べて見ると、ヌキ308頭中生体重500 kg以上のもの45頭、450 kg~500 kgのもの47頭、450 kg以下のもの216頭、メス148頭中500 kg以上のもの19頭、450 kg~500 kgのもの24頭、450 kg以下の

共進会出品枝肉の規格別分類

区分 名称	出品 点数 合計	ヌキ												ヌ												
		極上 (260kg以上)				上 (230kg~259kg)				中 (190kg~229kg)				極上 (260kg以上)				上 (230kg~259kg)								
		頭数	生体 量	枝肉 量	枝肉 歩留	単価	頭数	生体 量	枝肉 量	枝肉 歩留	単価	頭数	生体 量	枝肉 量	枝肉 歩留	単価	頭数	生体 量	枝肉 量	枝肉 歩留	単価	頭数	生体 量	枝肉 量	枝肉 歩留	単価
第2回 総社 枝肉共進会	32	15	504	292.0	55.4	448	10	432	246.0	56.8	437	4	391	222.0	56.7	419	3	511	306.0	59.0	583	—	—	—	—	—
第6回 倉敷 "	31	22	531	293.0	55.2	434	1	460	249.0	54.1	411	1	415	222.0	53.3	417	5	525	293.0	56.4	466	2	466	248.0	53.3	450
第2回 瀬戸 "	32	23	537	310.0	57.8	436	1	460	257.0	55.9	423	—	—	—	—	—	8	547	312.0	57.4	480	—	—	—	—	—
第1回 岡山 "	24	18	509	288.0	56.8	431	4	445	249.0	56.1	423	—	—	—	—	—	1	488	295.0	60.5	541	1	420	235.0	55.9	450
第1回 岡山県肉畜共進会	50	28	546	370.0	61.1	478	2	440	253.0	57.5	428	—	—	—	—	—	20	562	353.0	62.8	575	—	—	—	—	—

もの105頭となっており、ヌキで見ても生体重で450kg以上のものは全体の約50%であり、本表に見る共進会出品の極上の部類の牛において、やっと枝肉260kg~270kg程度であり、まだまだ改良目標(若令=180日肥育生体重580kg)に到着するためには、いま一層の努力の必要性を痛感するわけでありませう。

なお各地区ごとの入賞別平均を示したものが、次表であります、何等かの参考になれば幸甚と存じます。

(筆者 県営食肉市場技師)

肉畜(枝肉)共進会入賞区分別測定値及び単価

区分 名称	授賞区分	ヌキ								ヌ							
		頭数	体高	胸囲	管囲	体重	枝肉量	枝肉歩留	単価	頭数	体高	胸囲	管囲	体重	枝肉量	枝肉歩留	単価
第2回 総社 枝肉共進会	優秀	6	130.0	198.5	18.8	472	278.8	59.1	475	3	125.6	198.5	17.0	511	305.8	59.8	582
	優良	14	129.6	198.6	19.8	484	276.3	57.1	436	—	—	—	—	—	—	—	—
	良	9	124.0	185.3	18.8	425	243.7	57.3	423	—	—	—	—	—	—	—	—
第6回 倉敷 枝肉共進会	優秀	5	133.5	201.0	19.3	563	316.7	56.2	461	4	125.1	197.5	16.5	521	270.0	51.8	499
	優良	13	131.3	197.0	19.0	521	287.0	55.0	427	1	124.0	185.0	17.0	465	249.0	53.5	450
	良	6	128.0	193.3	17.3	493	267.8	54.3	421	2	124.0	191.5	16.0	503	267.0	53.0	444
第2回 瀬戸 枝肉共進会	優秀	6	131.2	200.8	18.5	550	322.1	58.6	448	3	127.0	201.6	16.8	557	324.0	58.1	541
	優良	11	130.0	201.5	18.1	548	319.0	58.2	436	3	131.0	201.6	17.0	548	307.0	56.0	445
	良	7	128.5	192.8	18.0	497	278.7	56.1	423	2	123.5	197.0	17.0	530	302.0	56.9	441
第1回 岡山 枝肉共進会	優秀	6	133.0	193.5	18.6	481	277.3	57.6	447	1	127.0	198.0	17.0	488	295.0	60.5	541
	優良	9	134.0	192.4	18.7	496	283.7	57.1	427	1	125.0	185.0	16.0	420	235.0	55.9	450
	良	7	132.0	190.0	19.1	511	279.3	54.6	417	—	—	—	—	—	—	—	—
第1回 岡山県 肉畜共進会	優秀	4	136.8	215.0	20.0	637	406.0	63.7	615	6	128.0	212.6	16.6	589	376.0	63.8	660
	優良	11	131.0	203.0	19.0	541	334.0	61.7	470	7	127.6	207.7	16.7	569	353.0	62.0	583
	良	15	132.0	212.0	19.0	512	305.0	59.7	441	7	107.3	204.6	13.7	532	332.0	62.5	495

素牛を安く手に入れる時期は6・7月

肥育経営で収益を上げるには、よい素牛を安く買って、売るときはできるだけよい値で売れるように仕上げるのですが、買う時期によって牛の価格には季節的な動きがあります。

子牛と成牛では時期的に多少の相違がありますが、一般的には牛の相場の安いときに買うのが有利なのは当然です。

季節的には2月から4月までと6、7月頃が買いどきです。6、7月は農繁期を終了した野上げ牛の出回るときであり、子牛も冬季に分べんのもので出回る時期なので相場も鈍くなります。